

テキストの外側 The Outside of Text

森田 均*¹
Hitoshi MORITA

*¹ 長崎県立大学国際情報学部情報メディア学科
Faculty of Info-Media Studies, University of Nagasaki

This document describes two dimensions of perspective for the elements of the literary text. A) Inside of text: traditional use of rhetoric. B) Outside of text: the background knowledge is used to construct the text and the real world.

1. はじめに

論文の表題として「外側」と記したが、そもそもテキストに「外部」など存在しないという考えもある[Barthes 84]。既に概念規定を示して入るが、改めて明らかにしておく。背景知識あるいは背景をテキストと実世界との接点と位置づけ、外のレトリックと仮称した。従来テキスト内部で検討されて来たレトリックは、内のレトリックとした。本研究はこのようにレトリックの概念を拡張した試みを継承してテキストの外側と内側について考察する。

2. Spuren -痕跡

テキストの内と外、あるいは内と外のレトリックについては、2007年度を通して様々な形式で議論を進めることができた。中でも本セッションの母体となっている「ことば工学研究会」とは度々共同で研究集会を開催している日本認知科学会第二期「文学と認知・コンピュータ」研究分科会(LCC II)の例会においては、小方孝氏、川村洋次氏と共に以下のような2回のワークショップを主宰した。詳細と予稿に関してはLCC IIのWebを参照。http://www.ogata.soft.iwate-pu.ac.jp/LCC2_Web/lcc2_index.html

2.1 LCC II 第 13 回例会(2007.11.10)

テーマ:「文学システムの諸相—内と外のレトリック—」

趣旨:広い意味での文学の様々な側面をシステムとして捉え、その生成、受容、修辞などに関して、構想、分析、モデル構築、システム構築、シミュレーション、論評などを行った研究を募集します。ここで「内」とはテキストの内部、テキストそのもの、「外」とはテキストの外部を意味します。テキストの外部とは、文学や物語を産出・流通する組織・社会・制度や作者など、テキストが参照する現象(社会現象等)などを意味します。何らかの意味で関連すると思われる発表を歓迎します。

2.2 LCC II 第 14 回例会(2008.3.8)

テーマ:「生成のためのレトリック —内と外を継承しつつ—」

趣旨:内と外のレトリックをテーマとした前回に引き続き、広い意味での文学の様々な側面をシステムとして捉え、その生成、受容、修辞などに関して、構想、分析、モデル構築、システム構築、シミュレーション、論評などを行った研究を募集します。ここで「内」とはテキストの内部、テキストそのもの、「外」とはテキストの外部を意味します。テキストの外部とは、文学や物語を産出・流通する組織・社会・制度や作者など、テキストが参照する現象

連絡先: 森田均, 長崎県立大学国際情報学部情報メディア学科, 851-2195 長崎県西彼杵郡長与町まなび野 1-1-1, 095-813-5105(直通, Fax 兼用), morita@sun.ac.jp

(社会現象等)などを意味します。何らかの意味で関連すると思われる発表を歓迎します。

3. 外堀を埋める試み

テキストの外側を考察するために、以下のような試みを行った。なお、3.1 と 3.3 は全数調査によるものであり、テキストの外側を把握するための徹底した探求の第一歩でもある。

3.1 モレッティとドラード

[Moretti 05]は、地理学や生物学の手法を援用して、グラフ、地図、樹状図を文学研究に導入した。[森田 04]では、「注文の多い料理店」[宮沢 66]の増殖ぶりをグラフとして図 1 に示し、表現形態の広がり具合を概観する樹状図を作成した(図 2)。また、テキストの論理構造から図 3 のような論理マップを示した。

また、テキストの時間及び空間による条件の相違などを検討すべく、長崎県由来の歴史資料のうち活版印刷に関して、天正遣欧使節の従者コンスタンチノ・ドラードについて調査した。また、様々な時代劇や時代小説が誕生するなど、物語の種子とも言うべき役割を果たしている松浦静山の『甲子夜話』について、構造を明らかにするモデルを作成した。[森田 06a] [森田 06b]。

3.2 SF 小説

そもそも SF 小説や探偵小説は、単なる娯楽の一分野と誤解されてしまう。しかし、現代の社会生活に欠くことのできない科学技術が最初に紹介されたのは SF 小説の中であった。ロボット(カレル・チャペック)、衛星通信(アーサー・クラーク)、など具体例は容易に枚挙することができる。また、探偵小説は、社会を映す鏡として最初に社会学的研究の対象となった後、物語内の探偵による推理の過程を論理式に表すなど計算機科学でも重要な研究対象として位置づけられている。SF 小説は、先端科学技術を、専門外の人々や地域社会にどのように伝えて行くことができるのか、その方法論を模索するために非常に有用な参考資料となる。一般的に娯楽分野と位置づけられるもの、小説に限らず絵本、紙芝居、DVD、ゲームなどもメディア表現の研究にとっては、たいへん重要な資料で試薬や標本にあたるようなものと考えられる。

3.3 平和式典テレビ中継番組の変遷とローカルメディア

[森田 07c]において詳細なデータを公表したが、テレビ放送が始まった 1953 年から 2007 年までの期間、長崎新聞(長崎)、中国新聞(広島)、西日本新聞(福岡)、朝日新聞(東京)の 8 月 6 日、9 日のテレビ番組表が掲載されている朝刊を対象として平和式典テレビ中継の変遷を調査した。広島式典のテレビ中継を最初に行ったのは、TBS で 1957 年に特別番組として放送した。

翌年には NHK が中継を始め、ニュース番組内に吸収されていた時期を含み全国中継が続いている。1975 年には NHK と地上波民放4系列が揃った広島テレビ局は、現在に至るまで式典中継の特別番組を放送し続けている。長崎では、1958 年にテレビ放送を開始した NHK が翌年から広島の式典中継を続けている。

長崎式典のテレビ中継を最初に行ったのは、長崎放送(NBC)で1963年の番組であった。NBCの中継は同年から現在まで途切れることなく続けられている。1969年に放送を開始したテレビ長崎(KTN)は1971年から式典中継を始めて、2年の中断を経ながらも現在に至っている。さらに1990年に放送を開始した長崎文化放送(NCC)は8月9日が日曜日となった1992年と1998年を除いて式典中継を続けている。1991年には長崎国際放送(NIB)が開局し、同年から8月9日の中継を始めている。このように長崎では平成に至って地上波の4系列が出揃ったのだが、新たなチャンネルが誕生すると県内では必ず式典中継の番組も増えている。なおNHKは、1991年には同時刻に国会代表質問が放送されたため、1992年にはオリンピック中継のため、1993年には細川内閣組閣の特別番組のために長崎式典を教育チャンネルで放送した。またNHKは、1970年から1999年まで長崎式典を九州管区で高校野球を中断し11時から11時20分まで中継していた。NHKの長崎式典全国中継は、ようやく2000年に始まったが、長崎県域放送の開始時刻よりも10分遅かった。長崎式典がNHKで完全に全国中継されるようになったのは2005年である。広島と長崎の平和式典は、当該県域の放送メディア環境整備の差異をも考慮する必要があるもののテレビ番組として同列に扱われていたとは言い難い。

4. まとめに代えて

従来の社会学的手法によるメディア研究は受動的なものであったが、筆者はコンテンツ生成にまで踏み込むことによって新たな手法の獲得と、新領域の開拓を目指した。今後必要なのは、さらに内と外に関する研究の技法を有機的に発展させることである。「フローティング・ハイパーテキスト」は、テキスト解釈や表現形態研究のために、中間的な存在としてハイパーテキストを用いる提案である。フローティング・ハイパーテキストは、現在のところは解釈のためのツールすぎない。しかし、テキストから画像へまたテキストから音声へ同一素材が様々に変容する具体例からメディア変換のルールを抽出することはできる。これまで「表現形態の拡張」と「論理構造の乗り物」という二つの役割を担わせてテキストからハイパーテキストへの変換という限定的な手法の一端を担わせた。「注文の多い料理店」の網羅的な調査収集は、一種類のみではあるがメディア変換の実例をモデル化のみならず、テキストの外側を把握するためにも役立つものと考えられる。さらに本論文において平和式典のテレビ中継にまで言及したのは、外側からどのようなアプローチが可能なのか考察するためであった。この試みから内と外の新たなモデルを獲得することを展望している。

参考文献

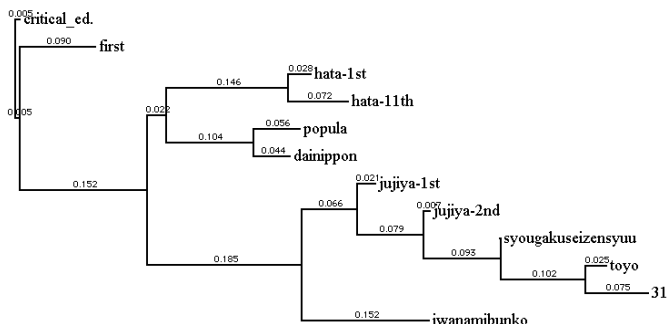
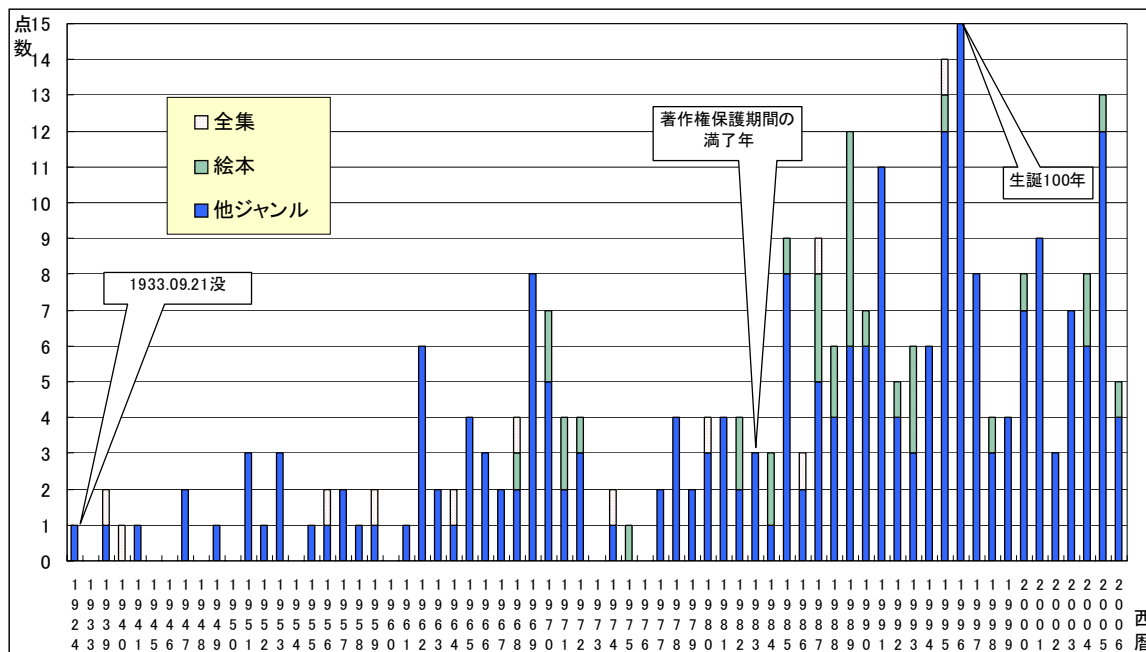
- [Barthes 84] Barthes, R.: Les sorties du texte, Editions du Seuil, 1984. (沢崎浩平・訳、『テキストの出口』, みすず書房, 1987)
- [宮沢 66] 宮沢賢治: 注文の多い料理店, 童話集銀河鉄道の夜, 岩波文庫, 1951(1966).
- [Moretti 05] Moretti, F.: Graphs, Maps, Trees, Abstract Models for a Literary History, Verso, 2005.

- [森田 04] 森田均: 注文の多い料理店のグラフ・地図・樹状図, 国際情報学部紀要第5号, 県立長崎シーボルト大学, 2004. (「国文学年次別論文集平成16年度版近代編」へ再録)
- [森田 05] 森田均: 「注文の多い料理店」のハイパーテキスト変換とその評価方法, 国際情報学部紀要第6号, 県立長崎シーボルト大学, 2005. (「国文学年次別論文集平成17年度版近代編」へ再録)
- [森田 06a] 森田均: 長崎コンテンツのメディア論的研究と資料デジタル化予備調査—天正時代の活版印刷と甲子夜話のハイパーテキスト化—, 県立長崎シーボルト大学「教育研究高度化推進費B」に係る研究報告書, 2006.
- [森田 06b] 森田均: フローティング・ハイパーテキスト—起源と展開, 国際情報学部紀要第7号, 県立長崎シーボルト大学, 2006.
- [森田 07a] 森田均: 文学テキストのハイパーテキスト変換, 雄松堂, 2007.
- [森田 07b] 森田均: 生成のための修辞, 認知科学第14巻第4号, 日本認知科学会, 2007.
- [森田 07c] 森田均: テレビ番組としての平和式典と長崎くんち, 国際情報学部紀要第8号, 県立長崎シーボルト大学, 2007.

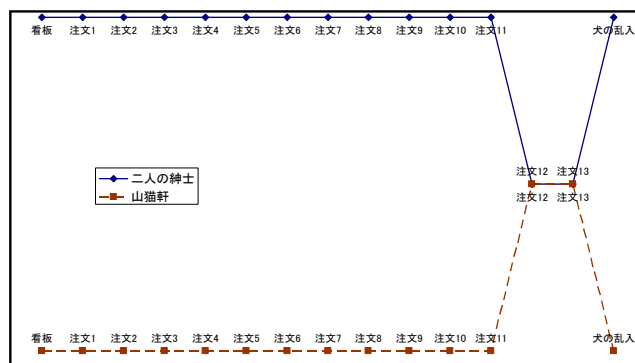
<表 1: 平和式典テレビ中継の変遷>

8月9日長崎平和祈念式典						8月6日広島平和記念式典					
西暦	NHK	NIB	NBC	KTN	NCC	西暦	NHK	HTV	RCC	TSS	HOME
1959			D			1959	A		B		
1960						1960	A		B		
1961						1961	A		B		
1962						1962			D		
1963			D			1963		D	D		
1964			D			1964	A	D	D		
1965			D			1965	A	D	B		
1966			D			1966	A	B	D		
1967			D			1967	A	B	D		
1968			D			1968	A	B	D		
1969			D			1969	A	B	D		
1970	D		D			1970	A	B	B		
1971			D			1971	A	B	B		D
1972			D			1972	A	B	D		
1973			D			1973	A	B	D		B
1974	D		D			1974	A	B	D		B
1975	C		D	D		1975	A	B	D		B
1976	C		D	D		1976	A	B	D	D	B
1977	C		D	D		1977	A	B	D	D	B
1978	C		D	D		1978	A	B	D	D	D
1979	C		D	D		1979	A	B	D	D	D
1980	C		D	D		1980	A	B	D	D	D
1981	C		D	D		1981	A	B	D	D	D
1982	C		D	D		1982	A	B	D	D	D
1983	C		D	D		1983	A	B	B	D	D
1984	C		D	D		1984	A	B	D	D	B
1985	C		D	D		1985	A	B	B	D	B
1986	C		D	D		1986	A	B	B	B	D
1987	C		D	D		1987	A	B	B	D	D
1988	C		D	D		1988	A	B	D	D	D
1989	C		D	D		1989	A	B	D	D	D
1990	C		D	D	D	1990	A	B	D	D	B
1991	C	D	D	D	D	1991	A	B	D	D	D
1992	C	D	D	D		1992	A	B	D	D	D
1993	C	D	D	D	D	1993	A	B	D	D	D
1994	C	D	D	D	D	1994	A	B	D	D	D
1995	C	C	D	D	B	1995	A	B	B	D	B
1996	C	D	D	D	D	1996	A	B	B	D	D
1997	C	D	D	D	D	1997	A	B	B	D	D
1998	C	D	D	D		1998	A	B	D	D	D
1999	C	D	D	D	D	1999	A	B	D	D	D
2000	B	D	D	D	D	2000	A	D	D	D	D
2001	B	D	D	D	D	2001	A	B	D	D	D
2002	B	D	D	D	D	2002	A	B	D	D	D
2003	B	D	D	D	D	2003	A	B	D	D	D
2004	B	D	D	D	D	2004	A	B	D	D	D
2005	A	D	D	D	D	2005	A	D	D	B	D
2006	A	D	D	D	D	2006	A	D	B	D	D
2007	A	D	D	D	D	2007	A	D	B	D	D

<図 1: 「注文の多い料理店」のグラフ>



<図 2: 「注文の多い料理店」の樹状図>



<図 3: 「注文の多い料理店」の地図>

<表 2: 「注文の多い料理店」の基本構造>

テキスト内の時間	番号	機能	テキスト
早い (始)	1	書出	二人の若い紳士が、すっかりイギリスの兵隊のかたちをして、ぴかぴかする鉄砲をかついで、白熊のような犬を二疋つれて、だいたい山奥の、木の葉のかさかさしたとこを、こんなことを言いながら、あるいておりました。(1)
↓	2	矛盾	それに、あんまり山が物凄いのので、その白熊のような犬が、二疋いっしょにめまいを起して、しばらくうなって、それから泡を吐いて死んでしまいました。(9)
↓	3	同一文	風がどうと吹いてきて、草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごとんごとんと鳴りました。(23)
↓	4	反復	<西洋料理店山猫軒>の看板: 以下扉に記された注文 13 回
↓	5	矛盾	そのときうしろからいきなり、「わん、わん、ぐわあ」と言う声が出て、あの白熊のような犬が二疋、扉をつきやぶって室の中に飛び込んできました。(210, 211)
↓	6	同一文	風がどうと吹いてきて、草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごとん、ごとんと鳴りました。(219)
遅い (終)	7	結末	しかし、さっき一ぺん紙くずのようになった二人の顔だけは、東京に帰っても、お湯にはいっても、もうもとのとおりになおりませんでした。(228)